

平成30年度の主な事業

新時代の 兵庫づくり

地域創生の展開

戦略を改定し、元気な高齢者を増やす健康長寿社会づくりも自然増対策と位置付け、施策を展開していきます。

地域創生を加速するため、国の地方創生推進交付金と拠点整備交付金を最大限に活用します。また、地域の資源を生かした魅力づくりを進めるため、県民局・県民センターの取り組みを促します。さらに、本県独自の地域創生交付金を創設し、地域創生戦略の推進に向けた市町の主体的な取り組みをきめ細やかに支援します。

安心できる 社会づくり

子育て環境の充実

保育定員を増やすとともに、待機児童が集中している都市部での受け皿整備を加速するため、建物の賃料や用地取得に伴う利子負担に助成します。病児・病後児保育の実施箇所も増やします。

これと併せて、保育士の処遇改善を行い、保育人材の定着と質の向上を図ります。子育て家庭の負担を軽減するため、県独自に中間所得層の第2子以降を対象とした保育料助成額を一律1千円増やします。例えば3歳未満の第3子には月7千円まで助成し



七夕祭り。地域の伝統行事を継承していきます

ます。

保護者の多様なニーズに対応するため、21時まで延長保育を行う保育所や19時半まで開所する放課後児童クラブへの支援を行います。

地域で子どもを見守ります。地域二世世代家族の育成に取り組みる地区を増やし、シニア世代によるふるさと文化の伝承を支援します。

医療・介護の充実

▼医療・介護の体制整備

団塊の世代が全員75歳以上になる2025年が近づいてきました。

保健医療計画と老人福祉計画を同時に改定し、医療と介護の体制を一体的に整備します。

病院における回復期病床への転換と特別養護老人ホームの整備を並行して進めます。また、神戸市西区玉津にある県内最初の特別養護老人ホーム「万寿の家」を元鈴蘭台西高校用地に移転するとともに、民間活力を活用し、地域の介護福祉拠点を整備します。

在宅介護では、定期巡回・随時対応サービスに参入する事業者を増やすため、人件費に加え、事業所の整備費や賃料への助成を行います。24時間対応の訪問看護ステーションを増やし、在宅看護の体制

を強化します。

▼介護人材の養成

介護人材が不足しています。福祉人材センターの窓口を新たに県内5カ所で開設し、就職支援を行うとともに、外国人技能実習制度を活用して介護職の実習生を受け入れます。総合衛生学院では、2019年度から介護福祉士学科を設置します。

▼地域医療の充実

地域の医療資源を有効に活用するため、改定する保健医療計画では2次保健医療圏域の再編や準圏域の設定を予定しています。疾病・事業ごとに地域の実情に応じた医療体制を構築します。

▼県立病院の充実

丹波医療センター（仮称）の2019年度開院を目指し、整備を進めます。はりま姫路総合医療センター（仮称）は設計を進めます。西宮病院と西宮市立中央病院の統合再編

は基本方針を明確化し、がんセンターについては今後の在り方を検討します。



丹波医療センター完成予想図

健康づくりの推進

▼健康寿命の延伸

県民の健康寿命の男女とも1歳延伸をめざします。
特定健診の結果や医療費、介護保険のデータを収集解析し、地域の特性に合わせて健康課題を示し、生活習慣の改善を促します。

社員の健康づくりに取り組む企業を応援します。がん検診や歯科健診の受診費用に対する助成を行います。
中小企業で健康に働ける環境を整えるため、「ファミリ

ーパック（中小企業従業員共済事業）への助成を行い、人間ドックなどの利用を促進します。

▼認知症医療体制の充実

認知症予防と「チエックシート」による早期発見を推進します。また、認知症患者医療センターを増設するとともに、地域ごとに医療機関のネットワーク化を図り、身近な医療機関での相談から診断、支援へと切れ目なく対応できる体制を整えます。

▼国民健康保険制度の基盤強化

国民健康保険の運営基盤を強化するため、新年度から市町とともに県も保険者になります。制度改革に伴い保険料が急激に上昇する市町へは激変緩和措置を講じるなど、円滑な移行に努めます。

ユニバーサル社会づくりの推進

▼ユニバーサル社会づくり

ユニバーサル社会づくりの理念と施策を規定した条例を制定します。併せて、手話講座を各地で実施するとともに、

譲りあい感謝マーク



ヘルプマーク



内部障害者や難病患者など、配慮が必要なことが外見からは分かりにくい人が身に付けています。これらのマークを付けている人を見掛けたら、バスや電車で座席を譲るなど、配慮してください。

研究所をロボットリハビリテーションの拠点とするため機能強化し、阪神地域では新たなリハビリテーション拠点の必要性を検討します。

▼障害者スポーツ拠点の整備検討

ワールドマスターズゲームズ2021関西を見据え、障害者スポーツの普及を図るため、県立総合リハビリテーションセンターに障害者スポーツ拠点の整備を検討します。

安全安心の地域づくり

▼自殺対策の強化

2017年の県内の自殺者数は976人と2年連続で千人を下回りました。さらに「いのちと心のサポートダイヤル」の回線数を増やし、SNSも活用して相談体制を充実させます。

▼消費生活相談の強化

消費者問題が多様化、複雑化しています。市町の相談体制も整ってきたことから、県の地域消費生活センターの相談機能を消費生活総合センターに集約し、高度な相談に対

応できる体制を整備します。

▼民泊の適正な運営の確保

6月に住宅宿泊事業法、いわゆる民泊法が施行されます。生活環境の悪化やトラブルの発生が懸念されることから、民泊を制限する区域や期間を地域の特性に合わせて設定し、適正な運営を誘導します。

消費者ホットライン

市町や県が設置する、近くの消費生活相談窓口につながります。商品やサービスなど消費生活に関する相談を消費生活相談員がお受けし、解決に向けた助言・あっせん等を行います。

いよいよ
局番なし **188番**

兵庫県いのちと心のサポートダイヤル

心の健康相談を中心に、自殺予防につながるよう、精神保健福祉士や臨床心理士らが相談に応じます。

電話番号 **078(382)3566**

相談時間 月曜～金曜 18時～翌朝8時30分
※土曜、日曜、祝休日は24時間対応

次代を担う 人づくり

教育の充実

▼学力向上対策の推進

子どもの学力向上に取り組みます。県教育委員会が指定する市町を中心に、地域人材を活用した放課後の補充学習を拡充します。「ひょうごつまずきポイント指導事例集」を活用して授業の改善にも取り組みます。

▼兵庫型「体験教育」の充実

本物に触れ、周囲との絆を感じる経験を通して豊かな人間性や社会性を育む兵庫型「体験教育」を推進します。小学5年生の自然学校では、感動体験をもたらす魅力的なプログラムの普及に取り

組み、中学生へは、ふるさと
の魅力発見を促す副読本を
配布します。

▼県立高校の特色化

学びたいことが学べる高校
の魅力・特色づくりを進める
ため、姫路西高校に国際理
学科を、武庫荘総合高校に福祉
探求科を新設するなど、高校
の特色化を進めます。

▼小規模高校への対応

小規模高校でも多様な学び
ができるよう、遠隔授業シ
ステムを2校に導入し、その効
果を検証します。

▼いじめや問題行動への対応

いじめや問題行動の深刻化
を防ぐ鍵は、
早期発見です。
スクールカウ
ンセラーとス
クールソーシ
ヤルワーカー
の配置を増や
すとともに、
SNSを活用

した教育相談窓口を試験的に
開設します。

▼教職員の負担軽減

教員が教育に専念できる
環境をつくるため、地域人材
がスクール・サポート・スタ
ッフとして業務の一部を担
うモデル事業を行います。中
学校へは部活動指導員を配
置します。

▼私立高校の授業料軽減

私立高校に通う家庭の負担
軽減を図るため、授業料の軽
減措置を拡充します。平均授
業料の上昇に伴い助成額の引
き上げを行うとともに、年収
590万円未満相当の世帯を
対象に、国が授業料無償化を
行う2020年度までの間、
国に先行して、県独自の段階
的な軽減措置を行います。

多様な人材の育成

▼県立大学の魅力向上

神戸商科キャンパスの経済
経営学部を2019年度から
文理融合型の社会情報科学部
(仮称)とグローバル人材を
育成する国際商経学部(仮
称)に再編します。このため、

新たな教育研究棟や国際学生
寮を整備します。

▼専門人材の育成

環境人間学部では専門教育
を横断的に進めるため、コ
ースを再編します。

▼実践的な職業教育を行う専門職大学院について

但馬で観
光・文化をテーマに、開設に
向けた具体的な内容の検討を
進めます。淡路では食をテ
マに検討を行います。



淡路景観園芸学校（淡路市）

カムバックひょうごセンター(神戸) カムバックひょうご東京センター

UJIターンを促進するため、移住相談や地域の各種支援策などの情報提供を行う総合窓口を神戸市と東京都に設置しています。

④ 神戸◆開設時間＝月曜～金曜10時～18時30分、土曜10時～17時30分 **④ 神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー6階**
☎078 (360) 9971 ☎078 (360) 0071

④ 東京◆開設時間＝火曜、水曜、金曜10時～18時30分、土曜10時～17時30分 **④ 東京都千代田区大手町2-6-2日本ビル3階**
☎03 (6262) 5995 ☎03 (6262) 2730



カムバックひょうごセンター(神戸市中央区)

カムバックひょうご

元気な
地域づくり

移住・定住の促進

▼カムバックひょうごの推進

UJターン・ワンストップ窓口であるカムバックひょうごセンターを強化します。兵庫の良さを体感してもらうため、東京、大阪からのお試し移住ツアーを実施します。

▼県内企業への就職促進

昨年末1・36倍と本県の有効求人倍率が高い水準で推移しており、人手不足感が強まっています。若者の県内就職と定着を促進するため、引き続き「ひょうごで働こう！プロジェクト」に取り組みます。兵庫型奨学金返済支援制度は、補助期間を最長5年まで延長し、中小企業の人材確保を支援します。

面接旅費、転居費用助成は、対象地域を拡大するとともに新たに企業の採用力強化に向けた取り組みを支援します。

第2新卒者に対しては、転職希望者を積極的に受け入れる企業の情報提供を強化します。

県民総活躍の促進

▼女性の活躍促進

本県の女性就業率は依然低い状況です。就業相談や職場の意識改革を促す研修を実施するなど、女性の活躍を応援します。

▼高齢者の活躍促進

元気な高齢者が増えていきます。ひょうご・しごと情報広場と県民局・県民センターに就労相談支援窓口を開設し、シニア世代に就職情報を提供します。

▼障害者の就労促進

県内企業の障害者雇用率が初めて2%を超えました。障害者の社会参加と自立を促進するため、特例子会社や事業協同組合の設立を支援します。在宅で行える仕事の開拓、インターネットを活用した授産製品の販売促進など、所得の向上を後押しします。

産業の活性化

▼次世代産業の育成

航空、ロボット、水素等環境、健康・医療などの次世代



NUKUMORI

障のある人が地域の障害福祉事業所で作った雑貨やスイーツのインターネットショップです。新商品も続々登場しています。ぜひ、アクセスしてください。

+NUKUMORI 検索

▼企業の海外展開支援

産業を育成するため、中小企業の参入支援、人材育成を推進します。重点分野にAI・IoTを追加し、第4次産業革命への対応を進めます。大型放射光施設Spring-8などを生かして新材料の開発を進めるため、産学官による放射光利用の推進体制を整備します。

海外に活路を求める中小企業が増えています。実現可能性調査を支援するとともに、JICAやJETROとも連携

▼起業・創業の促進

して海外展開を後押しします。昨年開設した起業プラザひょうごは若者を中心に利用が進んでいることから、若手起業家向けの支援事業を創設します。

多自然地域に限定していたI-T関連事業所の開設支援の対象地域を中小都市にも拡大します。高度な技術を持ち、国内外で活躍しているI-T起業家と連携し、I-Tベンチャーの誘致に取り組みます。制度融資の新規開業貸付に、経営者の個人保証を取らない制度を新設します。



平成29年10月に開設した起業プラザひょうご（神戸市中央区）

▼企業立地の促進

県内への産業立地を強化します。支援制度の申請期間を

建築確認申請の日まで1年程度延長し、制度の利便性を高めます。

▼ものづくりの振興

但馬技術大学校内に県内4カ所目のものづくり支援センターを設置します。但馬地域の企業の支援拠点として、独自技術の発掘・育成等に取り組みます。

▼事業承継の促進

黒字経営でありながら後継者がいないために廃業する企業が増えています。商工会、商工会議所、金融機関と連携して事業承継に悩む企業を支援する体制を整備します。

▼商店街の振興

県政150周年を記念したにぎわいづくりを支援します。次のリーダーを育てるため、若手事業者の発想を生かした取り組みへの支援を強化します。

農林水産業の基幹産業化

▼農業経営の法人化促進

農業の持続的な発展のため、農業経営の法人化を進めます。

設備の導入助成により法人化を促進するとともに、財務や労務管理など経営面の支援を行います。企業参入への支援も拡充します。

▼新規就農者の確保・育成

新規就農者を増やします。農業施設貸与や農業次世代人材投資資金の交付を引き続き実施するとともに、技術指導や地域への溶け込み支援を行います。U・Jターン就農を促進するため、東京や大阪で相談会を開催します。

▼施設園芸の普及・拡大

加西に整備した次世代施設園芸団地は、平均すると一日にトマト約1万1千個、ミニトマト約7万3千個の安定出荷ができる施設となっています。中山間地域においても経営規模に応じた施設園芸を展開できるように、加西拠点のノウハウを生かした環境制御機器の導入など、農家への支援を拡充します。

▼畜産業の規模拡大

但馬牛2万頭増頭計画の達成を目指します。規模拡大や新規参入する畜産農家の負担を軽減するため、賃貸する牛

舎の整備を支援するとともに、肉用牛の飼育を助けるヘルパ―組織の運営を支援します。

▼県立森林大学の格別開校

本格開校

「森林大学校」は、今秋、宍粟市内の小学校跡に移転し、本格開校します。より高度なカリキュラムを展開し、森林林業の担い手を育成します。



県立森林大学校の実習の様子

▼県産木材の利用促進

丹波の木質バイオマス発電所が稼働を始めました。

燃料材を含む木材需要の拡大に対応するため、林内路網など林業基盤の整備を進めます。所有者不明の森林が健全な森づくりの妨げになっていることから、集落ぐるみで行

う所有者追跡調査への支援を始めます。

付加価値の高い建築用材の

利用を増やす必要があります。工務店と連携した県産木造住宅の展示・相談会の実施や、木材を耐火構造部材として利用するための研究も行います。CITを活用した林業会館の建て替えも引き続き支援します。

▼豊かで美しい里海づくり

瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生するため、イカナゴなどの水産資源の維持に必要な栄養塩類の管理手法の開発に取り組みます。下水処理場の管理運転も行います。

生物の生息環境を改善するため、藻場や干潟の再生等を進めます。

▼漁場の整備

漁場整備については、日本海でスワイガニやアカガレイの増殖場、瀬戸内海で第2の鹿ノ瀬構想に基づく増殖場の整備を推進します。

▼県産ブランドの育成・発信

強化

国内外の観光客に但馬牛・神戸ビーフの魅力発信する拠点となる「神戸ビーフ館

(仮称)」の2018年度中のプレオープンを目指します。

鳥獣害対策の充実

▼シカ・イノシシの捕獲対策

野生鳥獣による農林業被害は依然深刻な問題です。捕獲目標をシカ4万6千頭、イノシシ2万頭に増やします。市町の要請により捕獲を代行する専門家チームを編成するほか、狩猟中のシカ、イノシシの捕獲を促進するため、捕獲報償金制度を拡充します。スマートフォンで遠隔操作できる大型捕獲おりの導入など、CITを活用した対策も進めます。射撃訓練や捕獲技術の研修を行う狩猟者育成センター(仮称)の整備に向け、環境調査を行います。

▼シカ肉の有効活用

捕獲したシカを有効に活用するため、搬入、回収、処理加工、流通、消費の一貫した体制を構築します。処理加工施設から遠い場所で捕獲されたシカの回収を促すため、臨時置場となる冷凍コンテナの設置や保冷車の導入を支援します。

交流人口の拡大

▼ツーリズムの振興

外国人旅行者数で大阪、京都に大きく差をつけられています。魅力発信の強化が必要です。神戸、姫路城、城崎温泉をはじめ、本県の誇る観光資源を結び付けた「ひょうごごールデンルート」をSNSで強力に発信します。

兵庫の自然や文化を生かした体験プログラムの開発、世界最大のオンライン旅行社との連携などにも取り組みます。海外では急速にキャッシュレス化が進んでいます。海外からの買い物客を呼び込むため、商店街の小売店、飲食店におけるスマートフォン決済の導入を支援します。

▼全国初の旅券事務所土日開庁

利便性向上のため、旅券事務所を土日開庁し、旅券の申請受付・交付を行います(ただし、月曜、火曜は閉庁)。

▼国際交流の推進

県政150周年を契機に、本県と交流を促進してきた姉妹・友好州省等20地域の代表

を招待し、「姉妹・友好州省サミット」を開催します。

▼地域の魅力向上

地域の多様な魅力の一つ一つに磨きをかけなければなりません。

国立公園六甲山では、神戸市と共にランドデザインを策定し、遊休施設の再生を促します。登山者や外国人観光客の増加に対応するため、自然保護センターをリニューアルし、名称もビクターセンターに改め、現在休館している冬期も開館します。

四つの日本遺産を生かした周遊ルートの開発にも取り組みます。銀の馬車道・鉱石の道では、明延と神子畑の接続ルートの整備を検討します。

山陰海岸ジオパークの運営体制や拠点施設を強化し、ユネスコ世界ジオパーク再認定を目指します。

新発見への期待が高まる篠山層群の化石については、調査範囲を特定して本格的な発掘調査に取り掛かります。

自転車を楽しむ人が増えています。アワイチで人気の淡路島にさらに多くのサイクリ



明延鉱山に残る一円電車（養父市）

ストを呼び込めるよう、徳島県と連携して、大鳴門橋への自転車道の設置を検討します。

▼県立都市公園の
リノベーション

身近な憩いの場である県立都市公園のリノベーションを順次実施していきます。明石公園、甲山森林公園の再整備を行うとともに、有馬富士公園、淡路夢舞台温室のリニューアルを検討します。

芸術文化・スポーツの
振興

▼芸術文化の振興

県立美術館「プラド美術館

展」、兵庫陶芸美術館「ひょうごのやきもの150年」、県立歴史博物館「線路はつづくレールでたどる兵庫五国の鉄道史」、県立考古博物館「ひょうご五国の始まりを探る」など県政150周年記念特別展を開催します。また、記念日である7月12日から16日の無料開放や、各館が連携したスタンプラリーを実施します。

▼スポーツの振興

「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催準備を加速します。生涯スポーツの裾野を広げるため、女性スポーツの活性化を応援する組織の設立やスポーツクラブ21ひょうごの活性化を支援します。秋にマレーシアのペナンで開催される「アジアパシフィックマスターズゲームズ」への参加ツアーを募集します。

東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、未来のスーパーアスリートの育成を支援します。事前合宿の招致にも市町と連携して取り組みます。

地域創生の取り組み

📍地域創生課 ☎078(362)4221 📞078(362)3950 兵庫県 地域創生 🔍検索

県では、平成27年度に策定した兵庫県地域創生戦略に基づき、人口減少社会が抱える構造的な課題に中長期的な視点で挑む「地域創生」に取り組んでいます。人口の「自然増対策（子ども・子育て対策、健康長寿対策）」、「社会増対策」と「地域の元気づくり」の4つの戦略目標に基づく施策を展開し、兵庫らしい地域創生の実現を目指します。

ひょうご出会いサポートセンター
(県内10カ所)

ひょうご出会いサポート
東京センター

進行する未婚化・晩婚化に対して、出会いイベント・個別お見合い紹介などを通じて独身男女の出会い・結婚を支援しています。

📍(本部) ☎078(891)7415 📞078(381)6829
(東京) ☎03(6262)3035 📞03(6262)3036

ひょうご 出会い 🔍検索

ポータルサイト
「夢かなうひょうご」

兵庫への移住や兵庫での就業を考える人に向け、兵庫の「暮らし」「仕事」「イベント等」の情報を発信しています。ひょうご de START会員に登録（無料）することで、これらの情報をいち早くお届けします。



夢かなうひょうご 🔍検索

兵庫県公式地域創生
Instagram

皆さんから投稿された兵庫県に関する写真を、写真共有型交流サイトのInstagramで紹介し、兵庫の魅力を発信して地域の活性化につなげます。

ハッシュタグ #lovehyogo

Instagram 兵庫 🔍検索

自立の 基盤づくり

防災・減災対策の強化

▼地震・津波対策

南海トラフ地震に備え、防潮堤などの整備を計画的に推進します。日本海側の整備計画も策定します。

▼避難対策等

緊急時の円滑な避難を支援するスマートフォン向けの情報伝達アプリを開発するとともに、災害時要援護者の個別支援計画の策定を進めます。

巨大災害に警鐘を鳴らす必要があります。わが国の防災・減災力の向上に貢献する人と防災未来センターの展示機能の在り方を検討します。

▼風水害対策

豪雨災害が頻発しています。第3次山地防災・土砂災害対策計画に基づき、治山ダムや砂防堰堤等の整備、災害に強い森づくりを進めます。河川の拡幅や洪水調節施設の整備も行います。

また、県民や市町が的確に

避難判断や行動ができるよう、地域の防災情報を提供するCGハザードマップの利用促進や土砂災害特別警戒区域の指定推進に取り組みます。

▼ため池対策

ため池を総合治水条例の指定貯水施設に指定して浸水被害の軽減に活用します。台風期を通じてあらかじめ水位を下げて大雨に備えてもらうよう管理者を支援します。

ため池の安全対策も急がれます。ため池の適正管理を支援する窓口を設置するとともに、小規模ため池の台帳を整備するなど、下流への影響が懸念されるため池の安全確保を図ります。

▼道路などの老朽化対策

インフラ・メンテナンス10箇年計画に基づき、計画的・効率的な老朽化対策を推進します。

エネルギー！環境対策 の推進

▼地球温暖化対策

温室効果ガスの排出削減目標を達成するため、うちエコ

診断の実施体制を強化し、中小事業所へは省エネ設備の導入を支援します。
バランスの取れた再生可能エネルギーの導入を目指し、バイオマス発電や小水力発電、家庭用蓄電システムの導入などを支援します。

▼水素エネルギーの普及

水素エネルギーの活用方策や水素受け入れ拠点の立地可能性を検討し、取り組み方針を定めます。県内3カ所目の水素ステーションの整備を支援します。



水素ステーション（尼崎市） 岩谷産業株式会社提供

▼廃棄物対策の推進

海の環境を改善するため、漂流ごみ、海底ごみなど海ごみの効率的な回収、処理方法

について国、市町と連携して確立を目指します。

アスベスト使用建築物の解体が今後増える見込みです。飛散防止を徹底するため、解体現場の監視を強化します。

交流基盤の整備

▼基幹道路ネットワークの整備

基幹道路ネットワークは地域活性化の基盤です。

大阪湾岸道路西伸部、神戸西バイパス、中国横断自動車道姫路鳥取線、東播磨道、山陰近畿自動車道、北近畿豊岡自動車道の早期整備、名神湾岸連絡線、播磨臨海地域道路の早期事業化を推進します。

2050年を見据えた基幹道路ネットワークの将来像を示す新たな基本計画を策定します。

高速道路の利便性を高めるスマートインターチェンジの整備を進めます。淡路ハイウェイオアシス、山陽自動車道三木サービスエリアなどでの整備を検討します。

▼港湾の利用促進

姫路港ににぎわいを取り戻すため、旅客船ターミナル一帯の再整備計画を具体化します。陸上輸送から海上輸送への転換を促進するため、姫路港と神戸港を結ぶ内航フェリー航路の開設可能性を探ります。

▼関西3空港の最大活用

神戸空港が民営化され、関西3空港の実質的な一体運営が始まりました。今後さらなる航空需要の拡大が見込まれる3空港の最大活用に向けた運用の見直しが行われます。国をはじめ、経済界、関係府県市に3空港懇談会の早期開催を働きかけます。



新たに但馬路線に就航するATR42-600

▼但馬空港の利用拡大

但馬路線に新機材ATR42-600を導入します。増える座席数を生かして団体旅行を呼び込むため、旅行会社が開発する首都圏からの団体旅行商品に対して助成します。

▼地域の移動手段の確保

年を取り、車を運転しなくなっても安心して生活できる環境をつくらなければなりません。路線バス、コミュニティバスの運行を支援するとともに、自家用車などを用いた地域団体の自主運行バスへの支援を拡充し、立ち上げを促進します。

活力あるまちづくり

▼空き家対策の充実

共同住宅や不動産業者が取り扱う物件を改修する場合も新たに支援対象とします。事業所に改修する場合は助成額を増やします。閉鎖された事業用建物やオフィスビルの空き床を活用する場合には改修費や賃料を助成します。

古民家再生への支援を拡充



空き家を改修した宿泊可能なゲストハウス

します。歴史的建築物については、ひょうこの近代住宅100選も対象に加えて支援します。

▼三宮駅周辺の再整備

兵庫の玄関口、三宮駅周辺の再整備が進んでいます。神戸市がこの3月に策定したエリア一帯の整備方針や新バスターミナルの整備基本計画の早期実現を支援します。

▼県庁周辺の整備

本庁舎1・2号館や県民会館の老朽化、神戸県民センター移転後の神戸総合庁舎の活用などの課題を踏まえて、本庁舎周辺の再整備を検討

します。このため、まず本庁舎1号館の耐震診断を実施します。

地域自立の推進

▼県の情報発信体制の強化

県の情報を県民に分かりやすく確実に届けます。新たに外部の人材を広報官に登用し、SNSの効果的な活用や広報紙の紙面刷新などを進め、県の情報発信力を強化します。

▼地方分権改革の推進

国の権限と財源を大きくりで地方に移譲する地方分権が必要です。

このため、憲法における地方自治の本旨の明確化などを国民的議論に高めるとともに、国の事務・権限を限定する新たな法律の制定や実験的な権限移譲の制度創設を国に提案します。

また、規制改革の新たな取り組みを始めます。過去に県や市町が独自に設けた規制が地域活性化の支障となっている事例を掘り起こし、その解消に努めます。

関西広域連合の取り組み

☎広域調整課 ☎078(362)4006 ☎078(362)4479

関西広域連合では、3年間の取り組みの指針となる第3期広域計画（平成29年～31年）に基づき、防災をはじめとする7分野の広域事務の実施や広域課題に対する企画調整、国の事務・権限の移譲などに関西一丸となって取り組みます。

広域防災

災害に備え、被災者支援を円滑に行うため、防災・減災力の向上に向けた事業や、実効性の確保のための広域応援訓練を実施しています。さらに、過去の教訓を踏まえた調査研究や事前の防災対策のシナリオ化など一連の災害対策を担う防災庁の創設に向けた啓発活動を展開します。



例年実施している関西広域応援訓練

広域医療

救急搬送体制のさらなる充実を目指し、平成30年3月より鳥取・兵庫エリアを担当する「鳥取県ドクターヘリ」の運航を開始しました。関西全域をドクターヘリ7機がカバーし、安全・安心を支えます。



日本一の出勤実績を誇る公立豊岡病院ドクターヘリ

広域観光・文化・スポーツ振興

関西への外国人旅行者誘致のため、官民一体となって設立した広域連携DMO「(一財)関西観光本部」と連携し、戦略的な観光プロモーションなどを実施します。さらに、東京オリンピック・パラリンピックやワールドマスタースゲームズ2021関西等の開催控え、関西文化の魅力などを発信し、国内外にわたり「KANSAI」の知名度向上を目指します。



オーストラリアにおけるトッププロモーションおよびワールドマスタースゲームズ2017オークランド大会における関西大会PR